

## JSPS Information

- ◇新会長挨拶
- ◇第26回運営委員会議事録
- ◇日本惑星科学会第10回総会議事録
- ◇地球物理学研究連絡委員会・議事抄録（第17期・第3回）
- ◇日本惑星科学会第27回運営委員会（書面による）議事録
- ◇惑星科学ニュースレター第31号
- ◇新役員名簿
- ◇日本惑星科学会賛助会員名簿

### ◇新会長挨拶

#### 惑星科学会の現状と今後

山本哲生

中沢前会長の後を受け、今期の惑星科学会長を引き受けすることになりました。惑星科学会の基礎を築かれた中沢会長の卓越した能力には及びませんが、私なりに努力し、学会、さらには日本の地球惑星科学の発展に寄与したいと考えています。皆様のご協力とご支援をよろしくお願い致します。

1992年の惑星科学会設立から約7年経ちました。その間、学会やそれを取り巻く環境も大きく変化しつつあります。

若い世代の会員にとっては、秋期講演会や春の合同大会が学会の存在を意識するもっとも大きな場と考えられます。しかし、これらを単に与えられた場として認識している人が増えつつあります。学会は会員が自主的に運営し発展させてゆく組織です。若い世代から、講演会や学会の運営と改革についての理念とそれに

基づく意見をどしどし出していただければ幸いです。

惑星科学を志す若い人達が増えているのはたいへん喜ぶべきことです。しかし一方では、オーバードクター（さらには助手層）の研究の新しい場の開拓が切実な問題となりつつあります。これは惑星科学に固有の問題ではありませんが、新しい学問分野である惑星科学では特に切実な問題です。もちろん、これはわれわれだけで一朝一夕に解決できる問題ではありません。しかし人事の流動、特に定職についている人達が現状に安住することなく、新しい場に積極的に進出し、裾野を拡げて行く自主的努力を欠くことはできません。同時に、広い範囲の分野の研究者の参入の促進を図り、惑星科学をより豊かなものにして行くことも必要です。

学会組織の運営については、これまで東工大事務局のご努力のお蔭でスムーズな運営がなされてきました。しかし、いつまでもこの体制を続ける訳には行きません。現在、運営委員会で、事務局の仕事の分散化についての方策をまとめつつあります。各種専門委

員会への仕事の分散、および専門委員会でカバーしきれない仕事を学会事務センターへの外注を拡大することによって、事務局の負担を最小化することがその基本方針です。これを実現するためには、それなりのコストを必要とします。6月の合同大会時の総会にて、事務局の仕事の分散化とそれに要する予算についての具体案をお諮りする予定です。

一方、われわれを取り巻く環境の動きも見逃すことはできません。「のぞみ」、LUNAR-A、MUSES-C、SELENE計画を初めとする現在進行中の月惑星探査計画への更なる支援体制の確立とそれのための活動は急務となっています。これらのミッションに続く月惑星探査計画の方針についての具体的検討も早急に行う必要があります。これについては、広範囲の物質科学研究者のご協力を欠くことはできません。また宇宙研等の関連研究所や大学の組織再編も今後のわが国の惑星科学の発展に大きく影響する事柄です。この他にも多くの問題がわれわれを取り巻いています。次代の

惑星科学を担う世代がこれらの問題について真剣に考え、ご意見を積極的に出されることを要望するとともに、そのための場を学会としてもできる限り作ってゆこう努力したいと考えています。

若い学会である惑星科学会も定常状態に入りつつあり、ある種の「惰性」が感じられるようになりました。学会設立準備委員会の折りに、中沢前会長の発案で、設立後10年経つと爆発する「時限爆弾」を仕掛けておこう、と半ば冗談に半ば真面目に議論したことがあります。会員諸氏が初心に思いを巡らし、改めて惑星科学会の存在意義とそれを担う基盤について、再考する時期に来ていると思われれます。更なる発展を図るためには、絶えざる変革が必要です。

## ◇第26回運営委員会議事録

### 第26回運営委員会議事録

日 時：1998年10月13日(火) 17:30～19:30

場 所：神戸大学滝川記念会館

出席者：土山, 小林, 杉浦, 藤原, 高木, 村江, 向井, 山本, 福岡, 田近, 渡邊, 大谷, 中澤, 香内, 佐々木, 阿部

欠席者：井田, 寺沢, 水谷, 松井(以上4人は委任状あり), 林, 渡部

オブザーバー：比屋根

#### 報告：

##### 1. 学会員の現況について

中澤会長より、10月12日現在の登録会員について

の報告があった。

##### 2. 合同欧文誌について

比屋根会員より、合同欧文誌EPSの出版状況について以下の報告があった。発送の遅れが問題となっているが、改善の努力がなされている。惑星科学関連の論文は徐々に増えつつある。惑星科学会としては、積極的な投稿と購読を増やす努力が求められている。

##### 3. 遊星人の発行状況

村江編集委員長から、「遊星人」の発行状況について、編集発行は順調であるとの報告があった。これに対して、渡邊財務委員長より、冊あたりのページ数が依然として多いことおよび冊あたりの単価が上昇して

いることにより、財政を圧迫している状況である旨の指摘があった。

#### 4. 1999年秋季講演会準備状況

大谷委員から、1999年11月13～15日に、東北大学工学部青葉記念会館で行われる予定の1999年秋季講演会の準備状況に関する報告があった。

#### 5. 1999年合同大会

阿部委員から、1999年の地球惑星科学関連学会合同大会は、北海道大学がLOCをつとめ、1999年6月8日～11日国立オリンピック記念青少年総合センターで開催される予定である旨の報告があった。

#### 6. 2003年IUGG誘致準備委員会

山本、阿部委員より、2003年のIUGG日本開催を1999年にバーミンガムで開催されるIUGGに提案する方向で検討している、誘致準備委員会での議論の状況についての報告があった。

#### 7. 日本学術会議

中澤会長より、前回の第3回惑星科学専門委員会以降、委員会は開催されていないが、日本学術会議では研連の見直し作業を行っていく旨の報告があった。

#### 議事：

運営委員会の成立を確認後、議事に入った。

##### 1. 入退会者について

中澤会長より、前回運営委員会以後の入退会者案が提案され、原案通り了承された。

##### 2. 第4期下期収支の中間報告及び次期予算原案について

渡辺財務専門委員長より、第4期下期収支の中間報告があり、収入・収支はおおむね予算通り執行されている旨の報告があった(詳細は総会議事録参照)。

渡辺財務専門委員長より、第5期上期の予算編成及び執行方針についての説明があり(詳細は総会議事録参照)、予算案が原案通り了承された。

渡辺財務専門委員長より、3年間会費滞納者および住所不明会員への対応、学生会員の身分確認手続きについて提案があり、了承された(詳細は総会議事録参照)。

#### 3. 会則の改訂

香内総務専門委員長より、「Earth, Planets and Space」の発刊に関連して、日本惑星科学会会則を改訂したい旨の提案があり(詳細は総会議事録参照)、原案通り了承された。

#### 4. 第5期役員選挙

香内選挙管理委員長より、第5期役員選挙の状況について報告があった。会長候補の推薦募集の締め切り日にミスプリントがあったが、e-mailニュースレターおよび学会総会会場で訂正記事を配布した上で、予定通りの選挙日程で第5期役員選挙を進めていくことが了承された(総会議事録参照)。

#### 5. 2000年WPGM日本開催について

阿部委員より、2000年のWPGMの開催について、6月26-28日の合同大会に引き続き6月27～29日に開催されることが決定した旨の報告があった。引き続き、惑星科学会としてWPGMに参加するかどうかを審議され、了承された。また、組織委員とプログラム委員の推薦も依頼されているが、選出は会長と連絡会委員に一任することにした。

#### 6. ESR応用計測研究会協賛

香内総務専門委員長より、表記研究会の協賛について提案があり、了承された。

#### 7. 天文研連シンポジウム「宇宙探求のフロンティアとLMSA」共催

香内総務専門委員長より、表記シンポジウムの共催

について提案があり、了承された。

#### 8. 2000年秋季学会講演会開催候補地について

香内総務専門委員長より、2000年秋季学会講演会

は筑波地区で開催したい旨の説明があった。しかし、WPGMの開催や他の学会との共催の可能性を考慮して継続審議とすることにした。

## ◇日本惑星科学会第10回総会議事録

### 日本惑星科学会第10回総会議事録

開催日時：1998年10月14日(水) 17:40～18:20

開催場所：日本惑星科学会秋季講演会会場 (神戸大学瀧川記念学術交流会館)

出席者数：85名(内委任状34名)

#### 1. 開会宣言

香内総務専門委員長より開会宣言があり、その後、佐々木会員を議長に、田近会員を書記に選んだ。

#### 2. 議事

##### 2.1 第4期下期収支の中間報告

渡辺財務専門委員長より、以下の通り第4期下期収支の中間報告があった。

まずはじめに、学会は財政的に大変苦しい状況にあることが報告された。この理由は、最近の社会的な経済状況悪化により、賛助会員が相次いで退会した結果、会費収入が大幅に減少したことによるものである。この対策としては、正会員会費の納入率アップと、徹底した歳出カットが必要であると考えられる。とくに、夏の学校の運営は財政的に全く問題がないため、補助金は必要ないものとみなし、今年度は見送る方針である。また、IUGG準備分担金についても、今年度は請求される可能性が低いので、見送る方針である。一方、当初発行を見合わせる予定であった会員名簿は、広告収入等の財政的見通しが立ったので、選挙時期に合わせた発行の準備をしている。その他の収入・収支はおおむね予算通り執行されている。

#### 第4期下期（1998年度）中間収支報告書（1998年1月1日～1998年10月1日）

##### I 収入の部

(単位：円)

科目	予算額	執行額	備考
会費収入	3,120,000	3,180,000	
一般会費収入	2,346,000	2,052,000	含海外会員
学生会費収入	576,000	340,000	
賛助会費収入	450,000	450,000	
滞納分納入	302,000	338,000	702,000円のうち
当期分未収会費	△554,000	—	
学会誌出版事業費収入	65,000	78,750	遊・星・人
購読料	65,000	78,750	個人・機関購読
広告料	0	0	

科目	予算額	執行額	備考
秋期講演会事業収入	340,000	0	神戸大学
予稿集頒布収入	180,000	0	1,500円/冊
参加費	△160,000	0	1,000円/人
雑収入	0	0	
寄付金収入	0	0	
雑収入	151,000	99,045	
受取利息	1,000	1,185	
その他の収入	150,000	97,860	学情入力(秋のみ)
当期収入合計(A)	3,676,000	3,357,795	4,120,000
前期繰越収支差額	161,604	161,604	400,000
収入合計(B)	3,837,604	3,519,399	4,520,000

## 第4期下期(1998年度)収支予算(暫定)(1998年1月1日~1998年12月31日)

## II 支出の部

(単位:円)

科目	予算額	執行額	備考
学会誌出版事業費	1,777,000	944,560	遊・星・人
印刷製本費	1,500,000	853,650	4回分・表紙
送料運搬費	258,000	90,910	学術刊行物
保管料	19,000	0	保管:委託事務
講演会事業費	676,000	75,900	
合同大会共催事業費	90,000	75,900	
送料運搬費	90,000	75,900	
秋季講演会事業費	386,000	0	神戸大学
予稿集印刷費	174,000	0	
会場費	0	0	会場費無料
送料運搬費	4,000	0	
消耗品費	20,000	0	
諸謝金	144,000	0	
雑費	44,000	0	ポスターパネル代
夏の学校補助金	100,000	0	執行見送り
IUGG準備分担金	100,000	0	執行見送り
管理費(委託事務関連)	1,086,000	311,030	学会事務センター
業務委託費	735,000	210,000	名簿版下出力
送料運搬費	336,000	94,160	
ニュースレター送料	236,000	40,400	選挙広報など

科目	予算額	執行額	備考
その他送料	100,000	53,760	会費請求
雑費	15,000	6,870	コピー・通信
管理費(事務局関連費)	297,000	69,982	
旅費交通費	82,000	0	学会受付者旅費
通信費	52,000	35,812	専用TEL・電報
送料運搬費	66,000	16,910	会誌著者分他
消耗品費	20,000	0	投票用紙, file他
印刷製本費	59,000	0	選挙広報, NL
諸謝金	0	0	
諸手数料	7,000	1,260	振込手数料
負担金	6,000	0	学協会サポート
雑費	5,000	1,600	雑誌購読料
予備費	1,604	0	
当期支出合計 (C)	3,837,604	1,401,472	
当期収支差額 (A-C)	△161,604	1,956,323	
次期繰越収支差額 (B-C)	0	2,117,927	

## 2.2 第5期上期予算編成・執行方針

渡辺財務専門委員長より、以下の通り第5期上期の予算編成及び執行方針についての説明があった。

通常は、3月の総会で前年度決算と当年度予算の承認を得ることになっている。ところが、今年に引続き、来年は合同大会における総会の開催が6月初旬と

なる予定のため、予算執行上の問題が生じる。一方、現時点での詳細な予算案作成は不確定要素が多く困難である。そこで、昨年同様、今総会で下記の来年度予算ガイドラインを審議・承認していただきたい。なお、正式な来年度予算作成は、このガイドラインに基づき第5期財務専門委員会が行なう。

### 第5期上期(1999年度) 予算ガイドライン(案)(1999年1月1日~12月31日)

#### I 収入の部

(単位:円)

科目	予算額	前年度予算額	備考
会費収入	3,100,000	3,120,000	
学会誌出版事業収入	70,000	65,000	遊・星・人
秋期講演会事業収入	350,000	340,000	予稿集・参加費
寄付金収入	0	0	
雑収入	150,000	151,000	利息・学情入力
当期収入合計 (A)	3,670,000	3,676,000	
前期繰越収支差額	100,000	161,604	
収入合計 (B)	3,770,000	3,837,604	

## 第5期上期（1999年度）予算ガイドライン（案）（1999年1月1日～12月31日）

## II 支出の部

（単位：円）

科目	予算額	前年度予算額	備考
学会誌出版事業費	1,650,000	1,777,000	遊・星・人
講演会事業費	600,000	676,000	春・秋
管理費	1,000,000	1,086,000	学会事務センター
管理費	300,000	297,000	
予備費	220,000	1,604	
当期支出合計 (C)	3,770,000	3,837,604	
当期収支差額 (A-C)	△100,000	△161,604	
次期繰越収支差額 (B-C)	0	0	

第5期上期予算編成・執行方針について挙手による採決を行ない、賛成85（内委任状34）反対0、棄権0で承認された。

## 3. その他

## 3.1 会費の納入その他について

会費の納入に関わる問題について渡辺財務専門委員長より以下の通り報告があった。

これまでも、3年間会費滞納者については除名措置を取っていたが、今回その制度を整備したい。具体的には、以下のような手続きを定める。学会事務センターは当該年度第3回会費請求時（通常9月末）において、その年度を含め3年間会費を滞納している会員で住所が不明でない者には督促状を送付し、11月30日までに納入がない場合は除名する旨、通告する。また、該当者のリストは財務専門委員長に宛送付する。財務専門委員長はそのリストを運営委員会に示し、関係する運営委員を通じて最終的な督促を依頼するとともに、納入なき場合の除名の決議を求める。会長は、上記督促状を送付したにもかかわらず、翌年の第1回会費請求時まで未納会費を完納しない会員を除名する。

一方、住所不明会員への対応については、以下のような手続きを定める。学会事務センターは、会員に

送付した会誌が宛先人不明で返送された場合、その会員を住所不明会員のリストに載せ、次号からの会誌の送付を停止する。学会事務センターは、当該年度第3回会費請求時において住所不明会員のリストを財務専門委員長宛に送付する。財務専門委員長は事務局と相談の上、関係する運営委員に照会し、本人に住所変更を届けるよう伝える努力をする。会長は3年間会費を滞納した会員で住所不明で連絡が取れなかった者は、退会処分とする。

学生会員については、卒業や就職にともなって住所不明になる場合が数多く生じているため、学生会員の身分確認手続きについて以下のような手続きを定める。事務局は学生会員の入会を受理するにあたって、学生の要件を満たすことを照会する身分証のコピーの提出を求め、学生と指導教官の氏名・連絡先を明記してもらう。学生会員は、毎年その身分を更新するにあたり、（11月末日までに）学生の要件を満たすことを証明する身分証のコピーを事務局宛に提出する必要がある。運営委員会は、上記手続きを行なった正会員を学生会員として承認する。事務局は、承認された学生会員のリストを学会事務センターに報告する。この手続きを怠った場合には、たとえ学生であっても、通常の正会員の会費（6000円）が学会事務センターから請求されることになる。

学生会員の扱いに関しては、以下のような議論があった。

学生会員が身分更新の手続きを忘れた場合、翌年の会費請求時において、何とかならないか、という問い合わせが殺到することが予想されるが、その場合の扱いについて何か対応できないか。たとえば、入金時に学生身分確認の手続きが取れるようにできないか。これに対し、事務処理は学会事務センターに委託しているため、そのような手間がかかる対応は難しい、との回答があった。そのような混乱を避けるためには、身分更新手続きの書類にそのことを明記しておく必要がある。

一方、学生といっても多様な身分があり、研究生、学振(DC)、学振(PD)などをどのように区別して扱うのか、という質問があった。これに対し、学振(PD)は正会員、学振(DC)や研究生は学生会員として扱うなど、妥当な対処をしている、との回答があった。

### 3.2 会則の改訂について

日本惑星科学会会則の改訂について、香内総務専門委員長から以下のような提案があった。

惑星科学会が欧文誌「Earth, Planets and Space (EPS)」の発行に積極的に協力していくことが第6回総会で承認された。この決議にもとづき、惑星科学会は、EPS編集委員会およびEPS運営委員会に委員を送りだし、EPSの発行に積極的に協力している。惑星科学会がEPSの発行に主体的にかかわっていくことを会則に明記することは重要である。そこで、関連する会則の項目について、以下のように改訂することを提案したい。

## 現会則

### 第3条

#### 2. 会誌の発行

### 第14条

#### 3. 専門委員会

- (1) 総務、財務、編集、将来計画、対外協力の5常設委員会からなり、会の業務を執行する。

### 改訂(案)

### 第3条

#### 2. 会誌「遊・星・人」その他の出版物の刊行

### 第14条

#### 3. 専門委員会

- (1) 総務、財務、編集、将来計画、対外協力、欧文誌の5常設委員会からなり、会の業務を執行する。

第18条 本会則は1998年10月15日から施行する。

### 付則

#### 3. 関係諸学会と協力して欧文誌「Earth, Planets and Space」を刊行する

#### 4. (旧3)

会則の改訂について挙手による採決を行ない、賛成85(内委任状34)、反対0、棄権0で承認された。

### 3.3 合同欧文誌の状況について

合同欧文誌の発刊状況について香内総務専門委員長より以下の通り報告があった。

現在までのところ発行は順調である。しかしながら、惑星科学会会員の雑誌購読数及び論文投稿数は少ないので、会員に努力をお願いしたい。

### 3.4 日本惑星科学会役員選挙について

惑星科学会の役員選挙について香内総務専門委員長



より以下の通り報告があった。

惑星科学ニューズレター第29号（日本惑星科学会誌「遊・星・人」Vol. 7, No. 3, p.268）に掲載の日本惑星科学会次期会長候補者の推薦・募集にミスプリントがあったため、会員に対してお詫びすると同時に、以下のように訂正したい。

応募受け付け締め切り （誤）平成10年1月22日  
（正）平成10年11月11日

また、役員選挙などの日程は以下の通りである。

- (1) 会長候補の推薦募集：平成10年9月25日～11月11日  
ニューズレター第29号（「遊・星・人」Vol. 7, No. 3）訂正あり（上述）
- (2) 役員（会長、運営委員）選挙公示：平成10年11月18日～12月17日  
ニューズレター（名簿に同封予定）
- (3) 運営委員会（書面）：平成10年12月18日～24日  
運営委員選出：平成10年12月24日  
会計幹事候補者推薦：平成10年12月24日
- (4) 会計幹事候補者公示・信任投票：平成11年1月7日～29日  
ニューズレター（選挙結果も）

### 3.5 来年度の学会予定

来年度の学会開催予定について香内総務専門委員長より以下の通り報告があった。

来年度の地球惑星科学関連学会合同大会は、北海道大学がLOCをつとめ、1999年6月8日～11日国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区

代々木）で開催される予定である。

一方、来年度の惑星科学会秋季講演会は、東北大学がLOCとなり、1999年11月13日～15日に青葉記念会館で開催される予定である。この前後には同じ仙台市において、地球電磁気・地球惑星圏学会および日本地震学会が開催される予定である。とくに11月12日にはのぞみ（Planet B）関連のシンポジウムを共同で開催することを地球電磁気・地球惑星圏学会に交渉する予定である。

### 3.6 その他

前回は指摘したように、学生の発表の質が低いので、ベスト・プレゼンテーション賞やベスト・ポスター賞などを設けて、発表の質の改善を奨励したらどうか、という意見が出された。また、秋季大会における対応は秋季大会のLOCにまかせたらどうか、という意見も出された。これに対し、会員にアンケートなどを取って意見を聞いた方が良くも知れないが、特別な賞を設けないことは学会の発足時からの基本方針であるため慎重に対処すべきである、と議長から回答があった。

EPSの海外における購読機関数はどれくらいか、との質問が出された。これに対し、最近は減少傾向にあるとの情報があるものの、正確な数は出版社が公開しない方針であるため分からない、と比屋根会員から回答があった。EPS運営委員会では、機関購読数を増やすためのさまざまな検討を行っており、出版社側もホームページを立ちあげて情報サービスを行なう予定である。

## ◇地球物理学研究連絡委員会・議事抄録（第17期・第3回）

日時：平成10年11月9日（月）13：30～17：00  
 会場：日本学術会議 第4部会議室（6階）  
 出席者：荒牧，今脇，竹本，田中，浜口，福嶋，福西の7委員，  
 島崎，高橋，中澤（以上オブザーバー），  
 上田（前委員長），  
 桐原（日本学術会議事務局）

議事に先立ち，荒牧委員長より，以下の報告がなされた。

7月2～3日に開催された第4部会（第17期・第6回）において，第4部世話担当の研連から申請のあった11の小委員会の設置申請がすべて承認され，第1常置委員会役員会に諮ることになった。この中に，当研連関係として，地球物理学研連（新規1），地球電磁気学研連（新規1），地球電磁気学研連・電波科学研連SCOSTEP専委（新規3）の小委員会設置申請が含まれている。また，10月27～28日に開催された第4部会（第17期・第7回）において，測地学研連から提案された対外報告「我が国の測地基準系の改訂について」が承認された。

これに関連して，島崎地震学研連委員長より，地震学研連でも「深海深部掘削船建造について」の「報告」を運営審議会に提出する準備をすすめていることが紹介された。

続いて，竹本幹事より，以下の報告がなされた。

前回の委員会（第17期・第2回）の議事抄録は，Eメールによる持ち回り委員会で既に承認されている。当研連から申請していた「地球物理データ問題小委員会（荒木 徹委員長）」の設置が9月8日の第1常置委員会で承認された。第1回小委員会は，平成11年1月20日に開催される予定である。

以下，荒牧地物研連委員長の司会により議事が進められた。

## 1. 2003年IUGG総会の日本招致について

上田前委員長（2003年IUGG準備委員会委員長）より，2003年IUGG日本招致について，下記の報告がなされた。

平成10年9月21～22日にモスクワでIUGG理事会が開催された。この場で2003年IUGG総会の日本招致を表明したが，概して好感をもって受け取られた。インドも依然意志表示しているが，Bureauは日本有利と見ている。国内の準備状況も順調である。平成10年11月4日に第7回IUGG準備委員会が開催され，招致提案書（案）が作られた。事務局の候補としては，「地球フロンティア研究システム（松野太郎システム長）」があがっている。これは，科学技術庁関係のJAMSTECとNASDAが共同で作った研究組織であり，IUGG関連の研究分野を広くカバーしている。

続いて，各委員及びオブザーバーから，各研連及び関連学会の準備状況についての説明がなされた。そのうち，準備委員会から出された招致提案書（案）の検討を行った。一部字句の修正の上，最終案は，荒牧地物研連委員長と上田準備委員会委員長に一任することとした。招致提案書は，荒牧地物研連委員長から，P. Wyllie IUGG総裁宛に送付される。

測地学審議会からのバックアップについては，上田準備委員会委員長から働きかけを続けることとなった。

## 2. IUGG次期執行部役員の推薦について

荒牧委員長より，次期IUGG総裁候補として，現IAGA総裁の河野長氏を日本から推薦したいとの提案があり，これを了承した。また，IUGG加盟の各アソシエーションの役員改選についても，従来からの方針に

従って、日本から積極的に役員候補を推薦することを再確認した。

### 3. 1999年IUGG総会(バーミンガム)の日本代表について

1999年7月19日～30日に英国のバーミンガムで開催予定の第22回IUGG総会の日本代表として、荒牧委員長を選出した。各アソシエーションの日本代表については、関係する研連ごとに対応する。

### 4. 平成11年度国際会議代表者派遣について

日本学術会議が行う国際会議代表者派遣については、従来3つの区分があった(付記参照)。これに加えて、平成10年度には、「特別派遣旅費」が予算措置された。これは、地球規模の国際プロジェクトへの参画を目的とした会議を対象としたものである。

そこで、平成10年度は、地物研連として、従来からの第3区分の枠で①陸水、②天文、③測地、また、特別派遣の枠で①地震、②海洋、③気象の順位で申請した。その結果、陸水、地震、海洋、気象の申請が認められた。

第16期からの申し送りによる平成10年度の国際会議代表者派遣のローテーションは、陸水→地物→測地

→電磁気→地震→海洋→火山→惑星→気象の順番であったので、平成11年度の申請は、10年度に申請が認められた研連を後に回して、地物→測地→電磁気→火山→惑星→陸水→地震→海洋→気象の順番とすることが確認された。なお、平成11年度、地物研連としてはIUGG総会への代表派遣を第1区分で申請できると考えられる。それ以外については、上記のローテーションに従って、第3区分と特別派遣の枠に振り分けることとした。ただし、第3区分については、天文研連との調整が必要である。

### 5. 研連の見直しについて

平成10年9月16日付けの和田第4部長からの書簡によれば、研連の見直しに関して、計18の「空き研連」を作る計画を提案しており、このうち第4部から3研連を「空き研連」としたいとのことである。研連が細分化されたままの、生物学、地質学・鉱物学及び地球物理学の3つの分野からそれぞれ1つの「空き研連」を出して欲しいという要請であるが、研連の見直しの問題は、今後継続して検討をすすめることとなった。

### 6. その他

なし

## ◇日本惑星科学会第27回運営委員会(書面による)議事録

### 議事録

開催日時：1998年12月22日～12月28日

出席者：期間内に議決返信のあった者を委員会出席とみなした

### 報告

#### 1. 運営委員の選任

第5期役員選挙結果が選挙管理委員長より報告された。

選挙で選ばれた運営委員は以下の12名である。

佐々木晶、香内 晃、渡邊誠一郎、向井 正、阿部 豊、井田 茂、藤原 顕、渡部潤一、土山 明、田近英一、水谷 仁、中澤 清

会則第12条3項による会長指名の8名の運営委員が会長より報告された。

林 祥介、堀内千尋、福岡孝昭、高木靖彦、中村昭子、比屋根肇、並木則行、倉本 圭

なお、選挙選出委員のうち、副会長に中澤およ

び水谷会員を推薦したい旨会長より発言があり、議決で可と認められれば、運営委員選挙次点者(大谷栄治および村江達士会員)が運営委員に繰り上げられることが確認された。

### 3. 専門委員会委員長

会則第12条4項により各専門委員会委員長が会長によって選出された。

総務専門委員長	香内 晃
財務専門委員長	渡邊誠一郎
編集専門委員長	井田 茂
将来計画専門委員長	林 祥介
対外協力専門委員長	阿部 豊
学会連合等部会長	田近英一
欧文誌専門委員長	佐々木晶

## 議事

### 1. 副会長の選出

会則第12条2項に従い、副会長に水谷 仁会員および中澤 清会員を推薦したいので承認願いたい、との会長提案があり、承認された。これにともない、運営委員選挙で次点の大谷栄治および村江達士会員が運営委員として加わることになった。

### 2. 部会の改廃

下記の部会の改廃が会長より提案され、承認された。

- ・従来の学会連合部会は対外協力専門委員会のもとに置く。
- ・企画部会は当面は廃止する。

[以下は会長の説明]

対外協力専門委員会はこれまでほとんど活動がなされてこなかった名前だけの委員会でした。第4期までは休眠状態であり、第4期には委員も選出していませんでした。本学会設立当初は、対外協力専門委員会の業務を「海外と協力可能なプロジェクト等の連絡・調整」と考えていました。しかし、

このような業務の大部分は宇宙科学研究所や宇宙開発事業団自身が行って、惑星科学会の出番はありませんでした。以上のような点が、対外協力専門委員会が休眠状態にあった大きな理由だと思います。

これまでは「対外」の対象を海外と考えていましたが、国内も広く対象に含めることにして(学会連合等部会を含むような形にして)、委員会を活性化させることが学会にとって重要な問題の対処に柔軟に対応できると判断し提案しました。このような委員会の性格変更によって、懸案になっているIUGGやWPGMへの対応などもこれまでよりスムーズになることが期待されます。

企画部会の当面の廃止を提案した主な理由は、「活動内容が不詳のまま現在に至っているため、必要性を議論してから立ちあげるべきである」、という点です。しかし、企画部会が本来行うべき仕事そのものの重要性を否定しているわけではなく、今後、運営委員会で企画部会が本来行うべき仕事をつめた上で、必要とあれば再度立ちあげるべきだと考えます。また、企画部会が本来行うべき仕事を他の委員会でを行うという選択肢もありえます。

### 3. 各専門委員会委員の選出

会則第12条5項に従い、会長により下記の会員に委員を委嘱したい旨提案があり、全委員一括して承認された。

総務専門委員会

福岡孝昭, 倉本 圭, 渡部直樹

財務専門委員会

田中秀和

編集専門委員会

倉本 圭, 荒川政彦, 飯島祐一, 海老原充, 加藤工, 木村眞, 小林憲正, 小林直樹, 佐々木晶, 高木靖彦, 田近英一, 中村良介, 並木則行, 平田岳史, 松島弘一, 村江達士, 渡部潤一

#### 将来計画専門委員会

山中大学, 北村良実, 小島秀康, 小林憲正, 土山明, 渡部潤一, 塚本尚義, 石渡正樹, 春山純一, 伊藤孝士

なお, 会長から対外協力専門委員会および欧文誌専門委員会の委員は委員会の業務内容を十分に検討してから委員を選出したい旨の提案があり, 承認された。

#### 4. 監事候補者の選出

会則第12条6項により運営委員による監事候補者選出のための選挙をおこない, 下記の2名の会員が選出され, 会員に公示することになった。

松田准一, 藤井直之

#### 5. 事務局の移転

事務局の移転に関して, 会長より事務局は1999年3月までは暫定的に東京工業大学地球惑星科学教室に置く旨の提案がなされ, 暫定承認された。

なお, 事務局の設置場所に関しては会則の変更をとまなうので, 6月の総会で会則付則の改正の承認を得て正式な決定となる。

[以下は会長の説明]

これまで本学会事務局は東京工業大学地球惑星科学教室におき, 種々の業務は同教室のスタッフのご努力によって支えられてきました。会則付則1によると, 「事務局は当分の間会長の所属機関におく」と記されています。したがって今期の事務局は北海道大学に移設せねばなりません。しかし, 私は1999年4月に異動することになっているため, 1月から3月までの事務局を北海道大学に置き, その後, 4月から別の箇所に移設するのは種々の点で不都合

です。中澤清前会長と相談したところ, 1999年3月までは東京工業大学地球惑星科学教室に置かせていただけるとの内諾が得られました。そこで, 事務局は1999年3月までは暫定的に東京工業大学地球惑星科学教室に置くことを提案します。同教室の方々にはあとしばらく従来どおりのご協力をお願いする次第です。

#### 議題6. 新事務局体制

新事務局体制に関して, 会長より書類上の事務局を固定化する方向で検討に入ることについての提案がなされ, 承認された。

[以下は会長の説明]

会長の交代毎に事務局を移転することは各種郵便物・問い合わせなどの混乱を招くことが予想されます。また, 従来のような極めて有能な事務局切り盛り人が会長身辺にいなくなるため, 学会事務局体制を崩壊させずに維持していくには, 事務局体制の抜本的な見直しが急務となります。ただ, 学会の財政状況は逼迫しており, 事務量軽減のために外注・設備投資を行う財源的ゆとりはほとんどありません。こうした条件を勘案し, 今後, 書類上の事務局を固定化する方向で検討すること必要があります。

#### 議題5, 6に関連する会長のコメント

1999年4月の事務局のスムーズな移設およびそれ以後の事務局体制の構築に向けて, これまで東工大事務局でやっていた仕事を分散化を図りたいと考えています。なお分散化のできるころは, 4月を待たずに実行して行く予定です。運営委員会にて早急にそのための具体案を作成し, 実行して行く予定です。運営委員各位のご理解とご協力をお願い致します。

## ◇惑星科学ニュースレター第31号

## CONTENTS

記

日本惑星科学会第5期会計監事選挙結果  
1999年地球惑星科学関連学会合同大会  
第11回日本惑星科学会総会

日 時：6月10日(木) 16:15  
場 所：合同大会C310会場

・日本惑星科学会第5期会計監事選挙結果  
1999年1月5日から2月5日まで、本会第5期会計監事の選挙(信任投票)がおこなわれました。その結果、10分の1以上の正会員から意義の申し出がなかったため、下記の2名が第5期会計監事に決定しました。

松田准一(阪大・理)  
藤井直之(名大・理)

なお、ご出席いただけない場合には、総会委任状にご記入の上、出席される方にお預けいただくか6月4日(金)までに総務委員長宛にFAX(011-706-7142)または郵便にてご送付ください。

編集責任者：山本哲生

発行者：日本惑星科学会事務局

〒113-8622

東京都文京区本駒込5-16-9

学会センターC21

日本学会事務センター内 日本惑星科学会

・1999年地球惑星科学関連学会合同大会  
6月8日(火)～11日(金)国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて標記大会が開催されます。ふるってご参加いただき、活発なご議論をいただきたいと思ひます。

また、合同大会期間中、会場内にて日本惑星科学会事務局の窓口を設けています。会費納入や住所変更などございましたらお申し出ください。

なお、合同大会に関する情報は下記の合同大会ホームページをご覧ください。

<http://mc-net.jtbcom.co.jp/earth99/>

総会ご欠席の方は、この委任状を6月10日(木)午前中までに合同大会会場内の日本惑星科学会事務局の窓口にお出しいただくか、または、6月4日(金)までに総務委員長(香内 晃)宛にFAX(011-706-7142)または郵便にてご送付ください。

香内 晃

〒060-0819 札幌市北区北19条西8丁目

北海道大学低温科学研究所

FAX: 011-706-7142

・第11回日本惑星科学会総会

第11回日本惑星科学会総会が地球惑星科学関連学会合同大会の期間中に下記の通り行われます。会員の方々のご意見を直接反映できる場ですので是非ともご出席いただくようお願いいたします。

## ◇新役員名簿

## 日本惑星科学会第5期役員名簿

会長

山本 哲生 (北大・理)

副会長

水谷 仁 (宇宙研)

中澤 清 (東工大・理工)

監事

松田 准一 (阪大・理)

藤井 直之 (名大・理)

運営委員・総務専門委員長

香内 晃 (北大・低温研)

運営委員・財務専門委員長

渡邊 誠一郎 (名大・理)

運営委員・編集専門委員長

井田 茂 (東工大・理工)

運営委員・将来計画専門委員長

林 祥介 (北大・理)

運営委員・対外協力専門委員長

阿部 豊 (東大・理)

運営委員・学会連合等部長

田近 英一 (東大・理)

運営委員・欧文誌専門委員長

佐々木 晶 (東大・理)

運営委員

大谷 栄治 (東北大・理)

堀内 千尋 (立命館大・理工)

倉本 圭 (北大・理)

高木 靖彦 (東邦学園短大)

土山 明 (阪大・理)

中村 昭子 (神戸大・自然)

並木 則行 (九大・理)

比屋根 肇 (東大・理)

福岡 孝昭 (立正大・地球環境)

藤原 顕 (宇宙研)

向井 正 (神戸大・自然)

村江 達士 (九大・理)

渡部 潤一 (天文台)

## ◇日本惑星科学会賛助会員名簿

1999年3月25日までに、賛助会員として本学会に御協力下さった団体は下記の通りです。社名等を掲載し、敬意と感謝の意を表します (五十音順)

カメカインスツルメンツ (株)

日本電気 (株) 宇宙開発室

(株) パスコ

(株) 日立製作所

三菱重工業 (株)

三菱プレジジョン (株)

(財) リモートセンシング技術センター